

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 0171500499, 社会福祉法人 七飯町社会福祉協議会, グループホームひだまりの家1, 亀田郡七飯町字中野210-2, 令和2年10月23日, 令和2年12月7日.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/O1/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0171500499-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Contains details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット, 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401, 令和2年11月18日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念に基づき住み慣れた町でその人らしく過ごして頂けるようにボランティアを受け入れ、趣味活動等のご協力をいただき、または地域の行事に参加させていただき、地域の方々との交流を深め、関りを持って頂けるよう支援していきます。家族会もご家族様や町内会の方々、近隣の方々を招きグループホームへの理解を深めております。今年度は新型コロナウイルスの影響もあり難しい状況が続いておりますが、ご家族様、利用者様が安心して当ホームを利用して頂けるよう、又は質の高いサービスの提供や職員のスキルアップに努力していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は七飯町中心部から離れた、ネギ畑などの豊かな畑に囲まれた七飯町らしい農産地に立地している。建物は変則的な2階建てで、2ユニット18人の高齢者が生活を共にしており、同一建物に併設されデイサービスと居宅事業所が事業展開している。運営は社会福祉法人七飯町社会福祉協議会で、2000年の開設という介護保険施行と同時に発足し、地域を担う社協として存在感を十分に示している。当事業所の優秀な点は、社会福祉法人の実績を生かした地域との取り組みを最初に挙げたい。傾聴や絵手紙教室、書道等の参加型から歌や、太鼓の鑑賞等の様々なボランティアを駆使しての行事を提供し、利用者に楽しい彩のある生活を提供している。また、職員の働きやすい環境づくりにも注目したい。年次休暇の消化や悩みごとの解消相談等管理者は職員面談にも積極的に取り組むなど介護職員の働く環境整備を整え、離職率の低下に繋げ、結果的に安定した向上あるサービス提供に寄与している。開設後20年が経過した今も、介護保険を主導し地元住民と共に歩みながら、地域の先頭に立つ当事業所「グループホームひだまりの家」に今後も期待したい。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 10 rows of evaluation items (No. 56-62) comparing organizational goals with actual results.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を廊下や事務所に掲示し、スタッフ間で共有を図り、実践につなげている。	管理者と職員は地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を共有し、事業所内に掲げたりパンフレットに掲載しながら、事業所と地域との関係を重視したサービスの提供に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年であれば、地域ボランティアの受け入れや町内会への参加にて日常的に交流を行っているが、今年はコロナ対策の為、実施できず。	開設後20年が経過し、各ボランティアの活動も活発で、生け花や書道、絵手紙など多彩で、出来上がった作品は町主催の文化に展示し、見学にも出かけている。地域のお祭りや行事等を通じ日頃から沢山の方々と触れ合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通常では、運営推進会議や家族会等の際、地域の方々へ伝えたり、法人として、介護教室等で参加者へフィードバックしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、コロナ感染防止の為、書面にて現況報告等行っている。	行政、民生委員、家族会、社協本部の出席を得て2ヶ月毎に開催している。議題は活動報告を始め身体拘束廃止、非常災害時対応、外部評価報告など多岐に渡り、活発な意見交換が行われている。議事録は玄関に提示し、利用者家族にも配布している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉課や包括支援センターとの連携に努めている。	行政とは、制度の改正点や運用での疑似解釈について気楽に問い合わせられる関係で、情報交換も随時行われ、信頼できる関係となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を開催し、各ユニットの状況を報告し、職員間での理解を再確認して、抑制や拘束のないケアに努めている。	身体拘束適正化委員会を立ち上げ、3ヶ月ごとに委員会を開催している。内容的には不適正ケアの事例検討や拘束の予防方法、センサーやベットの検討を行いながら、抑制も拘束も無縁なケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加や日々の状態観察で、見過ごさないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加等で制度の理解に努めており、現在成年後見制度を利用中の入居者様について、今後も支援の継続に努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は丁寧に説明を行い、理解・納得を得た上で締結をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会時等に意見や要望を伺うことで運営に反映できるよう努めている。	家族からの意見の聴取は、まず利用者へのサービス内容を伝える事と認識し、年4回のお便りの他に個別のお手紙も発送している。意見や苦情は真摯に受け止めサービスに繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的または個人面談の際に、意見等を聞く機会を設け、反映に努めている。	何でも何時でも話が出来る職場になるように日頃から風通しの良い関係を築いており、提案があれば介護現場等で検討し、よりよいサービスになるよう努めている。また人事考課制度の活用で個人面談も実施し、意見の収集に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の現況を把握・評価し、就業の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価シートの活用や面談にて個々の力量を把握し、育成へ取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等の際に、情報交換に努め、サービス向上に向けて取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、傾聴・共感しながら、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に情報収集を行い、家族の意向を聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に必要な支援を見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な家事作業を一緒に行い、感謝の意を伝え、関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の立場を尊重しながら、ケアの方向性を相談したり、協力していただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対策の為、制限はあるが、可能な範囲で、受診等の外出時に馴染みの場所に寄る等支援につとめている。	今までの馴染みや関係性を重要な視点と考え、親しんだ場所や、友人家族との時間を大切に重ねられるように支援している。具体的にはお盆の墓参りや、神社の参拝等、一人ひとりの今までの暮らしが途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性に配慮し、席を配置しており、困っている方に気付くと、職員を呼ぶ等支え合いにつながっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、電話で相談や連絡の支援を行ったり、逝去時お見送りをさせていただいている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、思いを聴き、表情や仕草から希望や意向を把握するよう、努めている。	生活を支える中で、希望や思いを理解して意向に沿えるように努めている。意思疎通が苦手や困難な場合でも、仕草や表情から、また本人の職歴や生活史から、本人本位の生活になるように支援している。	本人が最後の時間をどこで過ごしたいのか等の最終段階での希望・意向に関して、定期的に具体的な思いを聞き取り・記録し、より本人本位の介護となるように期待したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・ケアマネージャーから情報を収集し、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の身体状況や生活リズムを把握し、表情や行動から現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在、コロナ対策の為、ユニット会議等での話し合いが困難にて、日々の申送りや書面で意見交換し、計画を作成している。	介護計画、特に短期目標達成のため介護日誌の他にモニタリング様式で毎日の進行状態をチェックし、実情にあった介護計画になるよう努め、病気等による変化には、都度検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に加えて、申送りや連絡ノートを活用し、職員間での情報共有を行い、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応し、病院受診や移送車利用等柔軟かつ最適なサービスの提供に努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ対策の為、現在地域ボランティアの受け入れは行っていないが、書道や作品作りを支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続受診を支援したり、往診対応も行い、相互に情報を提供し、支援している。	月1回、主治医の往診があり、また日々看護職員による健康管理、受診時の職員同行等々で医療について支援している。かかりつけ医や協力医の医療機関からの情報は家族と共有し、夜間体制も完備している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変時には、即看護師へ連絡し、指示を受け、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、職員が同行し、医師面談時は家族の了承を得て、看護師が同席し、今後の方向性について、相談できる関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、事業所の指針について、説明を行い、本人と家族の意向を確認して、支援の提供に努めている。	終末期ケアについて、契約時に事業所として出来得る最善の支援を説明し、看取りに関する本人や家族の意向を確認している。現実的には看取り事例はなく、適切な対応で終末期に対処している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を受講し、急変時の対応を確認しており、AEDを設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の備蓄品や発電機を準備し、避難訓練を実施、地域との協力体制を築いている。	避難訓練は年に2回、地域と連携しながら実施している。停電での災害を想定し、発電機を用意しており、不意の災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳に配慮し、適切な声かけや対応に心掛けている。	接遇は介護の基本であることを常に意識して介護に臨んでいる。特に排泄誘導や入浴時等で尊厳を損なっていないか、礼を逸していないか、職員間でお互いに注意し、日々取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中で、本人の思いや希望を引き出せるよう、また、自分で選択したり決定しやすいよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調やペースを考慮し、本人の希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装や訪問理容の利用、好みを選択できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用したり、入居者様の好みのメニューを提供し、喜んでいただき、職員と一緒に片付けを行っている。	調理は専門職にお願いしており、お手伝いも自由参加としている。また利用者と職員は同席、同食を旨とし、同じ食卓を囲んで会話が弾む食事風景となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事形態や量・食器を工夫、調整し、支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせて、声がけ・見守り、状況に応じて、介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声がけ・定時誘導・見守り等個々に合わせた対応を行っており、日中と夜間の排泄ケア用品を工夫している。	排泄はトイレで行う事を基本に取り組んでおり、どのような形態であろうともトイレに誘導している。また乳製品や軽い運動も交えて、自然な排泄になるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の多い食事、十分な水分補給、毎朝牛乳やヤクルトを提供したり、体操や歩行運動等の軽運動で予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調や状態に合わせて、臨機応変に対応しており、拒否がある方は、タイミングを計り、無理のないよう支援している。	毎日お湯を入れて、誰でもが何時でも入れるように準備し、各人が週に2回以上は入浴できる様に努めている。お風呂拒否者には無理強いすることなく、介護員や時間に変化をつけて、お風呂が楽しめるように臨んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠に影響しないよう、適度に休息していただいたり、寝具や室温等に配慮し、日中の活動を促して、生活リズムを整え、安眠につながるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容は個人ファイルに綴り、理解・把握し、見守り・介助にて確実に服薬できるよう支援しており、また、状態変化時は即看護師や主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に応じて、手伝いやレクリエーション活動に楽しく、張り合いを持って参加できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年であれば、積極的に外出支援を行っているが、コロナ対策の為、実施できず、可能な範囲で外気浴を行ったり、ホーム内に季節の生花を飾り、気分転換を図れるよう努めている。	季節のドライブ、桜見物や紅葉狩りなど外食を兼ねて計画的に行っている。隣接する福祉施設や周囲の田園の散歩道も散策に活用し、閉じこもらない介護に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金は施設で管理し、買い物や受診時等必要時に支払いを支援しており、定期的に家族へ確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時、電話をかけたり、手紙の受け渡し等支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ対策も含め、定期的な換気を行い、季節感を採り入れるため、四季に合わせた花や飾り物を工夫し、エアコン等を使用して空調の調整を行い、快適に過ごせるよう努めている。	ユニットごとに構造の違いがあるが、地域の方々より寄贈された絵画が飾られ、天窓からは陽が差し込み、ちぎり絵、書道、折り紙、手芸品など各教室で作った作品が飾られ、利用者の生活の様子を知らせる記事が提示されている。ユニット間の通路は斜路で歩行訓練の場所となっている共有空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのソファにてテレビや雑誌を見たり、音楽を鑑賞する等、トラブルに配慮し、落ち着いた居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた寝具や家具等を、本人・家族と相談して配置し、居心地よく、寛げる居室づくりを工夫している。	居室にはクローゼットが備え付けてあり、在宅当時の家具や思い出の写真が飾られ、大型のぬいぐるみがベッドで休んでいるのは在宅当時と変わることなく、自室として一人ひとりが使い勝手の良さに工夫が見受けられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに表示し、手すりの設置やバリアフリーで安全を図り、自立の支援に努めている。		